

あぐりすと特別企画 (全5回) 谷井靖夫さんの0から始める農業奮闘記 第2回

谷井靖夫さんのプロフィール：平成26年に小千谷市長を退任し、昨年新規就農



▲誘引作業を行う谷井さん

栽培の場所は我が家に近い両新田のJA育苗センターにあるハウスです。春、稲の育苗が終わったハウスを賃借しています。私の場合、最初からハウス一棟での栽培は自信が無いので、友人と半分ずつに分けて借りていて、面積は3・2アールあります。ここに、培土を詰めた40センチ×60センチの容器を324個並べ、苗を一本ずつ植えた後、それぞれの苗から2本の枝を伸ばし、648本の枝のトマトを育てています。

施肥や灌水(かんすい)は専門知識や経験が必要ですが、養液土耕栽培方式では、324株にパイプで液肥を供給します。液肥を供給する時間、濃度、供給量はあらかじめ決められた条件に従い、器械が自動的にやってくれるので楽です。ハウス栽培で良かったと思うもう一つの点は、雨が降っていても気にせず作業ができることでしょう。648本のトマトでも毎日しなければならぬ仕事は山ほどありますが、どんな作業でも雨に濡れることなく、予定通り進めることが出来るのはとても大きな利点だと言えます。

私のような高齢の農業初心者であっても、なんとかトマトの栽培が出来ているのは、以上のように色々と有の難い点が多いからだと思います。

フルティカトマト目合わせ

[小千谷養液土耕栽培組合]



▶出荷規格を共有する生産者ら

8月3日(水)、小千谷養液土耕栽培組合は、フルティカトマトの本格的な出荷を前にJA千谷野菜集出荷場で目合わせ会を開きました。同会には生産者や市場関係者、JA職員など17人が参加し、出荷品質の基準や、出荷における注意点を共有しました。

長岡農業普及指導センター小千谷分室の椋澤圭查普及指導員は、フルティカトマト栽培の注意点として、お

盆前後にオオタバコガの発生が懸念されるため早めの防除を呼び掛け、合わせて「今年は湿度が高く病気が出やすい。下葉の整理を心掛けてほしい」とあいさつしました。

同組合は、硬化苗の出荷が終わったJAの育苗ハウスを有効利用し、養液栽培と土耕栽培の両方の良さを活かしたトマトの養液土耕栽培に6人と2団体で取り組んでいます。

終活セミナー家族円満に



▲講演を行う星野さん

7月30日(土) J Aの虹のホールおぢやで「終活セミナー」を開きました。昨年引き続き開催し、組合員や地域住民ら53人が参加しました。

司法書士星野誠事務所の星野哲也さんは講演を行い「相続の仕組みや成年後見人の制度を知ることが大切だが、家族円満であることがトラブルを避ける一番の方法」と強調しました。

ニンジン播種行う

[小千谷人参生産組合]



▶播種作業を行う中野さん

小千谷人参生産組合は8月上旬から下旬にニンジンの播種作業を行いました。

同組合では、雪を生かした「雪中にんじん」と「雪下にんじん」の栽培に生産者13人で取り組んでいます。

同組合の生産者中野拓朗さんは「今年は作付け面積を増やし、新しい品種にも取り組む」と意気込みを語りました。

青年部視察研修

[J A青年部]



▲デンカビッグスワンスタジアムにて

7月30日(土)、J A越後おぢや青年部は日帰り研修旅行を行い、青年部員やその家族など22人が参加しました。

当日は東京電力柏崎刈羽原子力発電所内を見学し、原子力発電の仕組みや安全への配慮・取り組みなどを学びました。その後、新潟市でアルビレックス新潟の試合を観戦し、有意義な研修となりました。

五輪に負けない熱戦 バレーボール大会

[片貝中央支店]



▲熱戦を繰り広げる参加者

8月7日(日)、片貝中央支店は、第17回J Aふれあいソフトバレーボール大会を、片貝中学校体育館で開催しました。大会には、男子の部12チームと女子の部9チームで、組合員や地域住民ら約250人が参加。

リオオリンピックに負けない熱戦が繰り広げられ、男子の部は高梨男子チーム、女子の部は寺町チームが優勝に輝きました。

ナニコレ珍発見



◀扇のように横広のナスです。
提供：新保恒實さん／千谷



▶しるしるのゴーヤです。
提供：堀井修さん
／片貝（池津）

救命リレーの大切さ学ぶ

[たんぼほの会]



▲実技を学ぶ会員ら

J Aのボランティア組織たんぼほの会は8月18日(木)小千谷消防本部で救急救命講習会を開きました。
同消防署員の指導で、人形を使った心肺蘇生法とAEDを使用した救命の流れを学びました。
同消防署員の田中さんは「こういった講習を受けて頂き、助かる命が増えると嬉しい」と語りました。

魚沼病院 「おむね」

健康診断でわかる事と 受診の重要性

J A新潟厚生連 魚沼病院

検査科

臨床検査技師長 反町彰志

「健康診断」とはその名の通り健康かどうか、病気になるっていかを確かめるためのものです。略して「健診」と言います。

個々の健康診断により内容は多少異なりますが、基本的には生活習慣病を見つけるためのものです。

定期的に健康診断を受け、自身の健康状態や病気の危険因子があるかなどを日頃から知識と共に理解している事は、とても重要です。

幾つかの指摘があるにもかかわらず、毎年同じように指摘され中々改善しない方が、多く居られる事も事実です。これを書いている本人もその一人ですが……。

これからは受けるだけで満足せず、自覚症状が無いからと放置することのないようにしたいものです。

検査では多くの検査数値が出ていますが、高いか低いかのみで問題にするのでなく、数年間による数値の変動傾向が基準内であっても注意していきたいものです。

やはり生活習慣からくる病気は徐々に数値が上昇または下降して、異常に至ることが多いと思います。同様に画像等の経時的変化も重要です。

同じ読み方の「検診」は特定の病気を早期に発見し、治療を進めるためのもので「調べる目的のある検査」を意味します。時には健診に追加して一部の検診の項目を実施することもあります。

日本人に多い生活習慣病が原因と言われる、ガン、高血圧、心臓病、糖尿病などと病名を書くこと、恐ろしくも感じますがこれらの予防や改善には大きく生活習慣が影響することも事実です。

健康診断を受けただけでは、健康の維持には繋がりません。内容を理解し生活習慣の維持改善に繋げる事こそ価値のある、受けて良かったと思える健診となります。

心当たりの方は、いつか！ではなく今から習慣の改善に取り組んでみてはいかがでしょうか。